

令和3年度

守山中学校いじめ防止基本方針

名古屋市立守山中学校

1 基本理念

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある。

本校は、上記のことを踏まえ、また、本市学校努力目標である「なかまと学び 夢を創る」の実現を目指して、以下の点を旨として、いじめの防止等のための対策を行う。

- 全ての生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにする。
- 全ての生徒がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないよう、「いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である」ことについて、生徒が十分に理解できるようにする。
- いじめを受けた生徒の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識し、教育委員会・家庭・地域・関係機関等との連携の下、いじめの問題を克服することを目指す。

2 いじめの定義の確認（H25.9 いじめ防止対策推進法 第2条より）

「いじめ」とは、
一定の人的関係にあるものが行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、該当生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

※ かつての定義には、「自分より弱いものに対して一方的に」、「継続的に」、「深刻な苦痛」との要素が含まれていたが、現在の定義にそれらの要素は含まれていない。

3 校内体制

- ・ 校長をいじめ防止対応の責任者とし、「いじめ防止対策委員会」を中心として教職員間の緊密な情報交換や共通理解の徹底を図り、一致協力して対応する体制で臨む。
- ・ いじめが生じた際には、学級担任等の特定の教員が抱え込むことなく、多様な専門性を持った職員が多面的に関わるなど、学校全体で組織的に対応する。
- ・ 「いじめ防止対策委員会」の構成員
校長・教頭・教務主任・校務主任・学年主任・生活指導主事・保健指導主事・教育相談担当・養護教諭・当該生徒の担任、部活動顧問・スクールカウンセラー・子ども応援委員会コーディネーターなど

4 教職員一人一人の心構え

- ・ 教職員一人一人が人権意識をもつ。
- ・ 教職員の言動が、生徒を傷つけたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。
- ・ 生徒とふれあう時間（放課・昼食・清掃・授業後などの時間）をできる限り多く取る。
- ・ 生徒の話に耳を傾け、親身になって対応し、生徒が何でも相談できる信頼関係を築く。
- ・ いじめを見過ごしたり、気付きながら見逃したり、相談を受けながら対応を先延ばしにしたりしない。
- ・ いじめ（特に、暴力を伴わないいじめ）は、大人が気付きにくく判断しにくい形で

行われることが多いことを認識し、ささいな兆候であっても、早い段階からの確に関わりをもち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。

- ・ 暴力的な行為など「目に見えるいじめ」を目撃した場合は、速やかに止めるなどの指導を最優先させる。

5 未然防止の取組

- ・ 学校の教育活動全体を通じ、生徒が活躍でき、他者の役に立っていると感じ取ることのできる機会を全ての生徒に提供し、生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう努める。
- ・ 生徒の心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。
- ・ 集団の一員としての自覚や自信を育むとともに互いの違いを認め合うことにより多様性を認める。多様性の中で相互に補い合っていく中で、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくる。
- ・ 上記の内容について、学校及び生徒の実態を踏まえ、子ども応援委員会と連携して企画・計画・実践を進める。

(1) 道徳教育・人権教育

- ・ 道徳教育の実践を通して、豊かな心の育成を図る。特に、「一人一人を大切にする」「相手の立場になって考える」「自分がされたくないことは相手にもしない」等、他を思いやる心、自他の生命を大切にすることを育むとともに、「死ね」「うざい」「きもい」など、人権意識に欠けた言葉遣いに対する指導の徹底に努める。

(2) 授業づくり

- ・ 生徒の自己肯定感を高めるために、「わかる授業」「一人一人が参加・活躍できる授業」づくりに向け、教師一人一人の授業力向上に努める。
- ・ 公開授業等により、互いの授業を参観し合う機会を位置付けるよう努め、教科の観点からだけでなく、生徒指導の観点から授業を参考にし合うようにする。

(3) 集団づくり

- ・ 学級、学年、学校行事において、社会体験や交流体験の機会を計画的に配置し、他の生徒や大人との関わり合いを通して、生徒が自ら「人と関わることの喜びや大切さ」に気付く・学ぶ機会を設定する。
- ・ 単に生徒が何かを体験すればよい、生徒同士が交流を深めればよい、といった意識ではなく、生徒の年齢や発達段階に応じた集団の一員としての自覚や態度、資質や能力を育むために、多様性を認め合い、「友達のよさに目を向け、積極的に認め合う活動」「グループや学級全体で助け合い、共通目標を達成する活動」など、生徒の創意や工夫に富んだ主体的な活動の場や機会を設定する。
- ・ 生徒会の取組において、「なごやINGキャンペーン」等の機会を生かし、生徒自身が、いじめの問題を自分たちの問題として受け止めること、そして、自分たちでできることを主体的に考えて行動できるよう働きかける。
- ・ 「夢と命の絆づくり推進事業」の積極的な活用を図る。

《学校全体での取組・活動》

「防犯教室」「ふれあいリサイクル運動」「自殺予防教育」
「体育大会」「音楽会」「人権集会」
「思春期セミナー」「3年生を送る会」 など

《各学年での中心となる取組・活動》

【1年生】 「校外学習」~~「市内分散学習」~~
【2年生】 「稲武野外教育」「職場体験学習」
【3年生】 「修学旅行」

《「なごやINGキャンペーン」の取組例》

・いじめ防止のスローガンを全校生徒が考案し、校内に掲示する。

《「夢と命の絆づくり推進事業」の取組例》

・思いやりの心を育む異学年交流活動
・いじめ防止に関する講演、意見交換会
・全校生徒による作品制作と鑑賞会

【参考資料】

- ・問題事象の未然防止に向けた生徒指導の取り組み方
H22.6 国立教育政策研究所
- ・校区ではぐくむ子どもの力 いじめ・不登校を減らすヒント
H23.6 国立教育政策研究所
- ・子どもの社会性が育つ「異年齢の交流活動」
—活動実施の考え方から教師用活動案まで—
H23.6 国立教育政策研究所
- ・生徒指導リーフ（8）「いじめの未然防止Ⅰ」
- ・生徒指導リーフ（8）「いじめの未然防止Ⅱ」
H24.9 国立教育政策研究所
- ・生徒指導リーフ「自尊感情」？それとも「自己有用感」？
H27.3 国立教育政策研究所

6 早期発見の取組

学級や部活動など、学校生活すべての場において、子どもをきめ細かく見守り、いじめの早期発見のために、日常的な観察とともに、質問紙によるアンケート調査、教育相談等における面談、生活ノートの点検などを計画的に行い、日常の生徒の様子を把握する。また、子ども応援委員会と定期的に情報交換を行うことで早期発見に努める。

(1) 日常的な観察

- ・日頃から生徒との触れ合いを多くして、生徒一人一人の交友関係、行動、思考の特徴をよく理解するようにし、いじめの兆候、生徒が示すサインを見逃さないようにする。

(2) 「学校生活アンケート（hyper-QU）」

- ・結果として表れる「学級での満足度」「学校生活における意欲」「ソーシャルスキルの定着具合」を基に、生徒個々への対応、また、学級集団づくりに活用する。

(3) 定期的な記名式のアンケート調査（いじめアンケート）

- ・ 「記名式アンケート」の実施により、誰が被害者か加害者かとかは関係なく、いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握し、未然防止の取組の評価・改善につなげる。

(4) 緊急的な記名式のアンケート調査

- ・ 重大事態が生じたときなど、事実関係を把握する必要がある場合は、緊急的に記名式でアンケート調査を行う。

(5) 教育相談

- ・ いじめの被害者に「全力で守る」という学校・教職員の姿勢・決意を示す。他の生徒のいじめについて見聞きした場合は、勇気を持って相談するよう呼び掛けるとともに、情報の発信元は絶対に明かさないと伝えておく。
- ・ 年度当初から「スクールカウンセラーだより」により、スクールカウンセラーと生徒の距離を縮める。担任の教育相談時の事例によっては、スクールカウンセラーと相談して慎重に対応する。
- ・ 教育相談に向けたアンケート調査や、(2)(3)でのアンケート調査の結果等を基に、全ての生徒を対象として、年に2回の教育相談週間を設ける。
- ・ 生徒が希望する場合は、担任以外の教職員、スクールカウンセラーへの相談も可能とする。

(6) 保護者・地域との連携

- ・ 保護者に対しては、日頃から生徒のよい点や気になる点など、学校の様子について連絡するように努めるとともに、生徒について気になることがあれば速やかに学校に連絡していただくよう依頼しておく。
- ・ 地域に対しては、「いじめ・問題行動等防止対策連絡会議」の場等を活用し、生徒について気になることがあれば速やかに学校に連絡が入るよう依頼しておく。

(7) 相談機関紹介カード「あったかハート」の配布

- ・ 年度当初に、全生徒に配布し、各相談機関について周知する。
- ・ 生徒手帳に入れておくなど、常時、いつでも見ることができるよう指導する。

7 いじめに対する措置（重大事態・警察との連携を含む）

- ・ 特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。
- ・ 教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、教育委員会・関係機関等と連携し、対応に当たる。とりわけ、児童虐待や重大ないじめ、自死などにつながる恐れのあるハイリスクな要因を抱えた生徒に関しては、早期発見・早期対応の上で、関係機関との連携を図る。
- ・ 生徒の個人情報の取扱い等、プライバシーには十分に留意する。

(1) いじめの発見時や相談・通報を受けたときの対応

- ・ 遊びや悪ふざけ、複数で一人を囲んでいる状況など、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めたり注意したりする。

- ・ 生徒や保護者からの訴えに対しては、軽視したり後回しにしたりせず、真摯に傾聴し、ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には早い段階からの確に関わりを持つようにする。その際、いじめられた生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保する。
- ・ 発見したり通報を受けたりした教職員は、一人で抱え込まず、速やかに「いじめ防止対策委員会」に報告し、情報を共有する。
- ・ 「いじめ防止対策委員会」を中心として、速やかに関係生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行う。
- ・ 以下のような「重大事態」に該当する、又は該当するかもしれないと思われる事案が発生した場合は、速やかに電話で教育委員会に概要を報告し、連携を図りながら対応に当たり、状況に応じて、所轄警察署・法務局・児童相談所など、関係機関との連携を図る。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自殺を企図した場合 ・ 身体に重大な傷害を負った場合 ・ 金品等に重大な被害を被った場合 ・ 精神性の疾患を発症した場合 ・ 金額にかかわらず、金銭や物品の関わりがあると思われる場合 ※ 恐喝・たかり・窃盗と思われる場合も、いじめとの関わりについて慎重に判断するよう努める。 ・ 程度にかかわらず怪我のある場合 ※ ふざけ・けんかと思われる場合についても、いじめとの関わりについて慎重に判断するよう努める。 ・ 性的な嫌がらせ等がある場合 ・ 携帯電話・インターネット等を使った誹謗中傷等の場合 ・ その他保護者等との話し合いがうまくいかない状況が続いている場合 ○ 「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある」 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめにより、生徒が登校できなくなった、またはできなくなりつつある場合、30日を待たず、1週間をめぐりに連絡し概要を報告する。 ※ また、生徒や保護者から、いじめにより重大な被害が生じたと申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等にあたる。調査の方法や留意事項は、「名古屋市いじめ防止基本方針」「いじめの重大事態に関するガイドライン」「不登校重大事態に係る調査の指針」を参照する。 |
|--|

- ・ 年間3回、定期的な調査（いじめアンケート）を実施し、教育委員会へ4月からの累計を報告する。

【調査期間】

- ① 4月～1学期末 ② 4月～2学期末 ③ 4月～年度末

【報告の内容】

- ・ 期間中の学年別・男女別の認知件数等
- ・ 個々のいじめについての具体的な状況

- ・ パソコンや携帯電話等における誹謗中傷の具体的な内容 など

(2) いじめられた生徒又はその保護者への支援

- ・ 「複数の教職員で見守る」「いじめた生徒を別室で指導する」など、徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、安心して学校生活を継続するよう伝える。
- ・ 上記の対応によっても、いじめられた生徒が学校を欠席せざるを得ない状況が続く場合には、学習の支援など、いじめられた生徒及びその保護者の心情に寄り添いながら支援する。
その際、「出欠席の取扱い」「内申も含めた成績への影響」について、いじめられた生徒に不利益が生じないことを初期段階から説明するよう配慮する。
- ・ 保護者には、電話連絡だけでなく、家庭訪問等により、その日のうちに事実関係を伝える。
- ・ 状況に応じて、子ども応援委員会・スクールカウンセラーや外部専門家の協力を得る。
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行うことが大切である。

(3) いじめた生徒への指導又は保護者への助言

- ・ いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
- ・ 迅速に保護者に連絡し、事実に対する保護者の理解や納得を得た上、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう、保護者の協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。
- ・ いじめた生徒が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、当該生徒の健全な人格の発達に配慮する。
- ・ いじめの状況に応じて、心理的な孤立感・疎外感を与えないよう一定の教育的配慮の下、「特別の指導計画による指導」のほか、「教育委員会との判断による出席停止」、「警察との連携による措置」も含め、毅然とした対応をする。

(4) いじめが起きた集団への働きかけ

- ・ 傍観者に対しては自分の問題として捉えさせ、観衆に対してはいじめに加担する行為であることを理解させる。
- ・ 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- ・ いじめの解決とは、謝罪のみで終わるものではなく、双方の当事者や周りの者全員を含む集団が、好ましい集団活動を取り戻すことをもって判断するようにする。
- ・ 全ての生徒が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

(5) ネット上でのいじめへの対応

- ・ 名誉毀損やプライバシー侵害等、不適切な書き込み等については、教育委員会が委託する業者や所轄警察署に相談し、直ちに削除する措置をとる。

- ・ 生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。
- ・ 警察、法務局、関係業者等の専門家を講師とした講演会を実施したり、相談機関の窓口や、関係機関が実施する取組を周知したりする。
- ・ パスワード付きサイトやSNS、スマートフォンや携帯電話のメールを利用したいじめなどについては、より大人の目に触れにくく、発見しにくいいため、学校における情報モラル教育の充実を図る。
- ・ 保護者に対しても、情報モラルに関する講演会等を実施して、現状について理解を求めるとともに、家庭における「スマートフォンや携帯電話の使用に関する約束事」を決めておいていただくよう、折に触れて依頼する。

8 子ども応援委員会との連携

必要に応じて、子ども応援委員会との連携を図り、未然防止及び早期発見の取り組みを進めるとともに問題の解決に努める。

9 校内研修の実施

いじめの防止等のための対策に関する校内研修を実施し、教職員の資質向上に努める。

10 学校評価の実施

いじめの防止等のための対策に関わる取組等について自己評価を行い、学校関係者評価と合わせて、その結果を公表する。

<p>関係生徒及び周囲の生徒からの事情聴取</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 状況に応じて、聞き取りが必要と思われる生徒から事情聴取を行い、いじめの事実の有無の確認を行う。
<p>いじめか否かの判断 (=いじめの認知)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取った内容の集約やこれまでの関係生徒の状況等から、いじめか否かの判断を行う。
<p>今後の対応の決定</p>	<p>《いじめられた生徒に対して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「見守り体制」の構築等、安全の確保。 ・ スクールカウンセラーとの面談。 <p>《いじめた生徒に対して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの行為の責任を自覚させるとともに、反省を促す指導。 <p>《両者及び保護者に対して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状況に応じた謝罪等の場の設定。 <p>《「観衆」「傍観者」に対して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「観衆」には、いじめに加担する行為であること、「傍観者」には、知らせる勇気をもつことについての指導。 <p>《保護者への連絡》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導の経過及び今後の対応について、被害・加害両方の保護者へ連絡する。
<p>事実関係の客観的かつ正確な記録の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「発見」から「初期対応」、「事情聴取」「保護者への連絡」など、経過の全般について、客観的な事実を時系列で正確にまとめておく。 ・ 教職員の「憶測」や「感情」が入らないように注意し、会話についてはできる限り実際の会話の通りに記録するようにする。

◆ いじめが発生した場合の対応の流れ

直接目撃した

(暴力行為、からかい、死ぬ等の言葉など)

その場で制止・指導
軽視・見て見ぬふりしない

通報・相談を受けた

(本人、他の生徒、保護者などから)

真摯に傾聴
軽視・後回ししない

「いじめ防止対策委員会」へ事実を迅速・正確に報告

校長・教頭・教務主任・校務主任・学年主任・生活指導主事・保健指導主事・教育相談担当・養護教諭・当該生徒の担任・部活動顧問・スクールカウンセラー・子ども応援委員会コーディネーターなど

◆情報の共有

◆対応策の検討・協議・決定

◆関係生徒に関する情報収集

◆関係生徒への事情聴取

◆いじめの有無の確認

いじめの認知・判断

重大事態

ネット

- ◇病院搬送等応急処置
- ◇教育委員会への一報
- ◇子ども応援委員会との連携
- ◇警察・法務局への相談通報 (校長・教頭)
- ◇緊急アンケートの実施 (教務主任・生徒指導主事)

- ◇教員委員会への一報
- ◇委託業者へ相談 (校長・教頭)

- ◆被害・加害生徒の保護者への連絡・家庭訪問 (担任・教務主任)
- ◆被害生徒の安全確保・心のケア (養護教諭・SC)
- ◆加害生徒への指導・別室指導等の措置・心のケア等の措置 (学年主任・生徒指導主事)
- ◆聴衆・傍観者への指導 (学年主任・生徒指導主事)
- ◆状況に応じた謝罪等の場の設定 (教頭)
- ◆客観的な事実 (聞き取りの内容等) を、時系列で正確に記録
- ◆子ども応援委員会との連携 (子ども応援委員会コーディネーター)

一定の解消

継続指導・経過指導

再発防止・未然防止の取組

年間を見通したいじめ防止のための指導計画

月	諸会議等	未然防止の取組	早期発見の取組	校内研修
4	職員会議 ・指導方針 ・指導計画 いじめ防止対策委員会①	互いを認め合う 学級作り 学校生活の きまりについて		「生徒理解」
5	いじめ防止対策委員会②	プログラム実践①	あったかハート配布 hyper-QU① 教育相談アンケート① 教育相談①	「情報共有」
6	いじめ防止対策委員会③	ふれあいリサイクル運動 修学旅行 プログラム実践② プログラム実践③	学校生活アンケート①	「hyper-QUの 結果活用」
7	いじめ防止対策委員会④ いじめ防連絡会議①	地域訪問① 自殺予防教育	個人懇談会①	
8		地域訪問②		「hyper-QU 事例検討会」
9	いじめ防止対策委員会⑤	稲武野外教育		
10	いじめ防止対策委員会⑥	体育大会		
11	いじめ防止対策委員会⑦	音楽会	hyper-QU② 教育相談アンケート② 教育相談(1,2年)② 個人懇談会(3年)②	
12	いじめ防止対策委員会⑧	人権集会	学校生活アンケート② 個人懇談会②(1,2年) 個人懇談会③(3年)	「hyper-QUの 結果活用」
1	いじめ防止対策委員会⑨	職場体験学習 校外学習	個人懇談会④(3年)	「hyper-QU 事例検討会」
2	いじめ防止対策委員会⑩ いじめ防連絡会議②	3年生を送る会	学校生活アンケート③	「努力点のまとめと 共に対応検討」
3	いじめ防止対策委員会⑪ 小中連絡会	思春期セミナー		

事案発生時・いじめ対策委員会の随時開催

わかる授業・全員が参加活躍できる授業

日常的な観察・生活ノート等の活用・SCの活用・必要に応じて緊急的な記名式アンケート

学期	月	学校行事	生徒指導・教育相談	学活・保健	道徳・特活	会議・校内研修
1	4	入学式・始業式	<ul style="list-style-type: none"> ・hyper-QU の結果を活用した前年度からの引継ぎ ・全職員で生徒理解 		いじめ防止教育プログラム	いじめ防止対策委員会① <u>研修①</u> 生徒理解
	5		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 hyper-QU 実施 ・ヘルプシグナルの把握と対応 ・全職員で情報共有 ・教育相談アンケート(学校作成) 			いじめ防止対策委員会② <u>研修②</u> 情報共有について
	6	中間テスト 教育相談 ふれあいリサイクル運動	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 hyper-QU 結果の把握と支援の方法を全職員で共通理解 ・子ども応援委員会との情報共有 ・学校生活アンケート(学校作成) 	防犯教室		いじめ防止対策委員会③ <u>研修③</u> hyper-QU 結果の活用
	7	期末テスト 個人懇談会 終業式 地域訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・hyperQU の返却 保護者と情報共有 	自殺予防教育		いじめ防止対策委員会④ 中ブロックいじめ問題行動等防止対策連絡会議①
	8	部活動 出校日 地域訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども応援委員会との情報共有 ・部活動や出校日を中心に様子を把握 			<u>研修④</u> hyper-QU 事例検討会
2	9	始業式 稲武野外教育 修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期、学年職員中心に生徒観察 		いじめ防止教育プログラム	いじめ防止対策委員会⑤
	10	中間テスト 体育大会	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への取り組みを通して、生徒観察 			いじめ防止対策委員会⑥
	11	音楽会 期末テスト 教育相談 3年個人懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回 hyper-QU 実施 ・ヘルプシグナルの把握と対応 ・全職員で情報共有 ・教育相談アンケート(学校作成) ・第2回 hyper-QU 結果の把握と支援の方法を全職員で共通理解 ・子ども応援委員会との情報共有 			いじめ防止対策委員会⑦
	12	人権週間 個人懇談会 終業式	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート(学校作成) ・hyper-QU の返却 保護者と情報共有 	人権集会		いじめ防止対策委員会⑧ <u>研修⑤</u> hyper-QU 結果の活用
3	1	始業式 学年末テスト 職場体験学習 校外学習 3年個人懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への取り組みを通して、生徒観察 		いじめ防止教育プログラム	いじめ防止対策委員会⑨ <u>研修⑥</u> hyper-QU 事例検討会
	2	(入試) 学年末テスト 2年保護者会 3年生を送る会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート(学校作成) ・いじめ防止基本方針見直し 			いじめ防止対策委員会⑩ <u>研修⑦</u> 努力点まとめと対応検討 中ブロックいじめ問題行動等防止対策連絡会議②
	3	卒業式 1年保護者会 (入試) 修了式	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ ・来年度に向けた引き継ぎ準備 	思春期セミナー 2年生		いじめ防止対策委員会⑪ 小中連絡会